

ちばだい プレス

CHIBADAI
PRESS
千葉大学
広報誌

2019

VOL.

48

SUMMER

特集

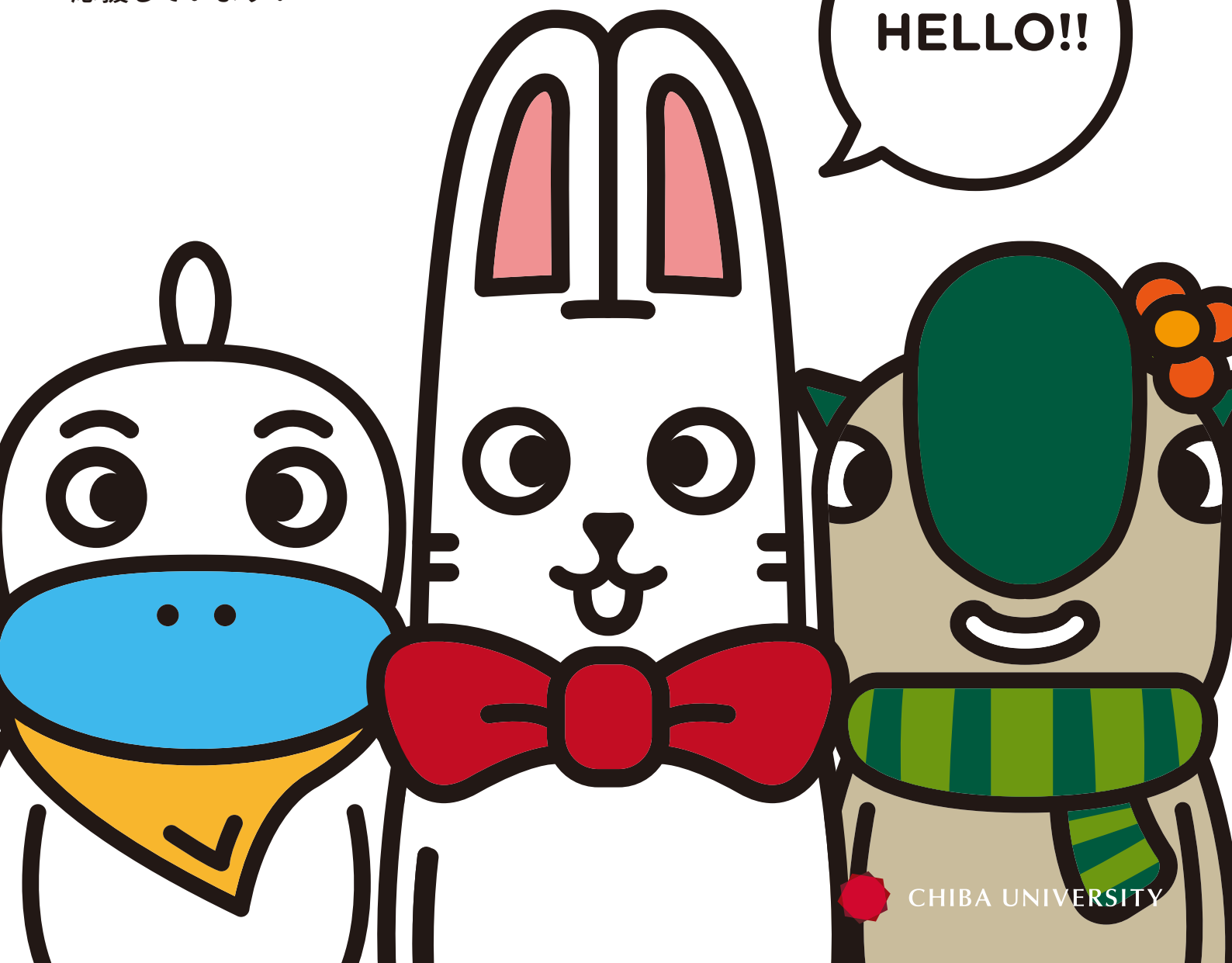
千葉大学全員留学 ENGINEプラン 2020年始動!!

卒業生の声 ～学生生活を振り返って～

千葉大学マスコット
ニシイノマツ 誕生!

千葉大学はパラスポーツを
応援しています!

HELLO!!



CHIBA UNIVERSITY

千葉大学 全員留学

ENGINEプラン 2020年始動!!

※ENGINE=Enhanced Network for Global Innovative Education



— 発信力・自己表現力・コミュニケーション力を備えた、世界で活躍する人材育成 —

千葉大学は、グローバル人材育成戦略をさらに拡大展開するプランとして

「千葉大学グローバル人材育成プラン

"ENGINE"」を策定。

学部学生・大学院生の

「全員留学」を目指して、

2020年度からスタートします。

全員留学 卒業・修了までに1回の海外留学

●多様な留学プログラムの充実

学部学生・大学院生ともに留学を必修化していきます。学部学生には、全学教育・専門教育に関する留学プログラムを、合わせて80プログラム以上提供します。学びたい国やスタイルにあわせて、滞在期間や目的に応じたさまざまな留学プログラムを用意します。

●留学支援体制の充実

多様な留学を実現するために、SULA※1を増員し、教員SULA※2や留学支援職員を配置。留学プログラムの開発や、プログラム実施の支援を行います。また、留学を支援する奨学金を新たに設立します。

スマートラーニングの実践強化

●いつでもどこでも学べる環境の整備

ICTを活用した双方向個別学修システムであるスマートラーニングを用いて、海外留学時でも国内で行われている授業を受講したり、日本にいる教員からの継続的な指導を受けたりすることができる「いつでもどこでも学べる環境」を提供していきます。今後、100以上の科目の開設を目指しています。

英語教育改革

●グローバル教育の充実

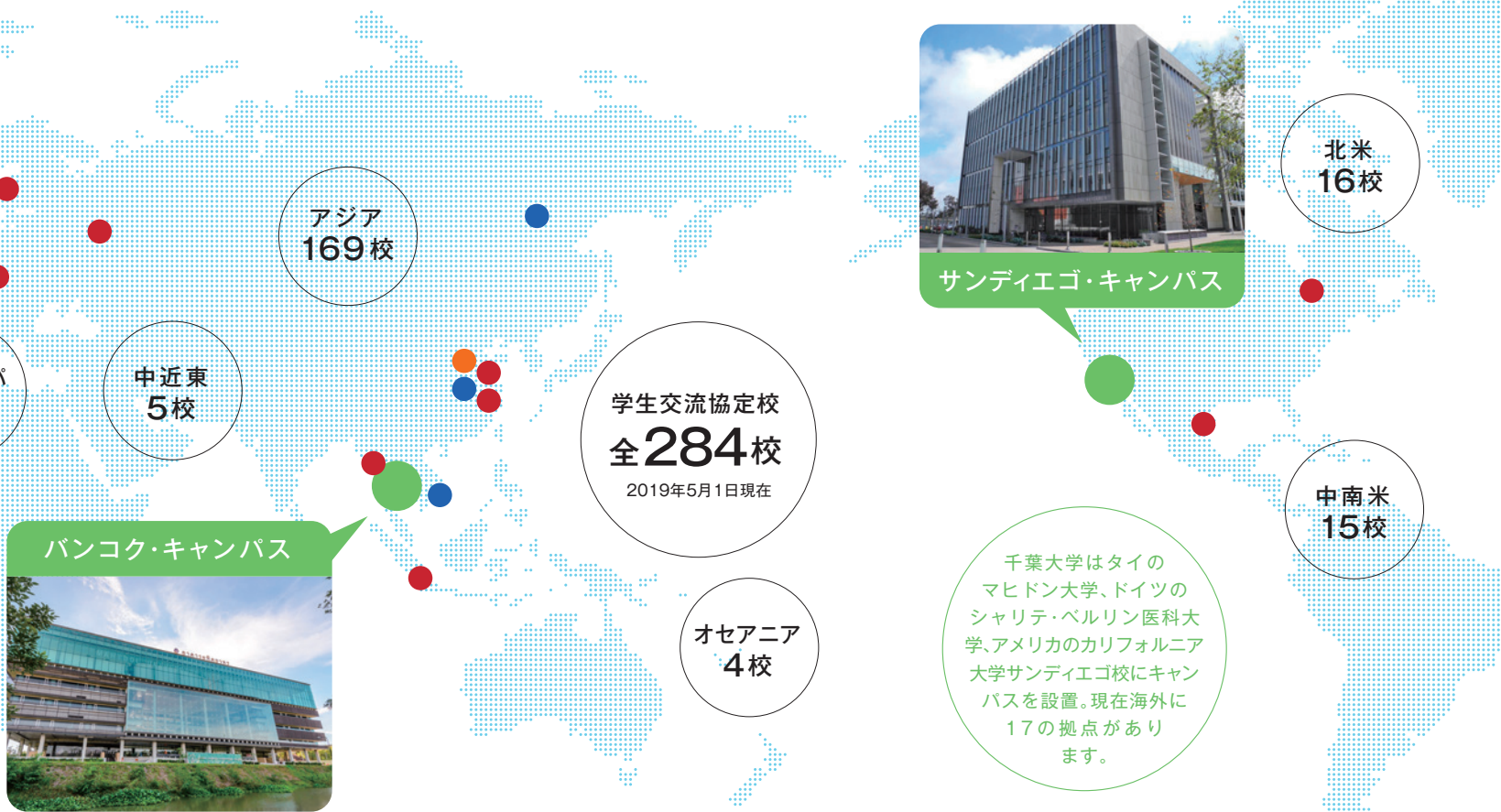
千葉大学では、世界共通語である英語を多角的に学べます。読み書きだけでなく、ネイティブの講師を中心に、少人数グループで英語を実践的に学ぶ科目「イングリッシュ・コミュニケーション」でリスニングやスピーキングもカバー。さらに、外国人教員などによる英語を用いた専門科目も開講し、語学力だけでなく世界に通用するコミュニケーション能力を育成します。



千葉大学では、学生の皆さんがグローバルに活躍するための第一歩を踏み出してもらうことを目的に、「全員留学」を始めます。学部学生にはそれぞれの学年に応じたプログラムを用意。プログラムは最短で10日程度で、海外の大学に留学する場合は、全プログラムにおいて交流協定を締結している大学への留学を予定しています。

「全員留学」では、原則として学部学生・大学院生は卒業・修了までに1度は留学に行く必要がありますが、病気などで海外渡航ができない学生も、日本にいながら海外留学に行くような効果が得られるプログラムを受けることで、卒業できます。

※1 SULA Super University Learning Administratorの略称。学務系の職員で、学生の希望に応じて学修支援や学生生活に関する相談に対応するほか、留学支援や留学相談も行います。



千葉大学はタイのマヒドン大学、ドイツのシャリテ・ベルリン医科大学、アメリカのカリフォルニア大学サンディエゴ校にキャンパスを設置。現在海外に17の拠点があります。

千葉大学は「世界最高水準の教育研究を推進する総合大学」として、高度な専門的知識と高い倫理観を基礎に自ら考え行動し、国際社会のさまざまな分野において真のリーダーとなるグローバル人材の育成を目指しています。そのため、主体的に学べる学修環境の整備に加えて、コミュニケーション英語力の育成や海外留学に向けた支援体制を強化してきました。

さらに、2020年より「ENGINE」プランを始動させて、高い課題解決能力と多様な価値観を備えたグローバル人材の育成を加速させます。学生諸君には、必修化される海外留学を、自分の将来を見つめ直す機会にしてほしいと思います。そのためには、始めに国際日本学などの教養科目を受講して自分なりの留学目的を考えた後、大学が提供する留学プログラムの中から自分の目的に適したプログラムを選択して留学するようにしてください。千葉大学は、あなたの留学経験が帰国後にも生かせるように、さまざまな支援をしていきます。



千葉大学長 徳久 剛史

● ×3 キャンパス ● ×4 オフィス
● ×1 共同研究センター ● ×9 国際交流センター

卒業生の声

～ 学生生活を振り返って～

やました さとし
山下 智史さん

2019年卒 / 山口県出身

[学部・学科] 教育学部 小学校教員養成課程
(現在の教育学部教員養成課程)

[現在の所属] 小学校教員



千葉大学オープンバドミントン大会
「車いすの部」優勝の記念品



多くの出会いを大切に、
勇気とやる気を持って行動しよう！

Q. 千葉大学を選んだ理由は？

大規模な総合大学であり主要都市に位置しているため、多くのことを学べるという漠然とした憧れを千葉大学に持っていました。将来は教員になりたかったので、教育学部を選びました。

Q. 在学中に取り組んだことは？

バドミントン部に所属し、関東リーグ3部昇格や全国教員系学生バドミントン選手権で準優勝などの戦績を収めました。2年次に運営補助とし

4人の卒業生が、千葉大学でどのように
学び、どのような学生生活を送ったか。
先輩たちから、在校生や千葉大学を
目指す方へのメッセージをお届けします。

て参加した大会でパラバドミントンと出会い、その面白さに衝撃を受け、競技の振興や普及に携わるように。4年次の3月に開催した第18回千葉大学オープンバドミントン大会では、恩師である谷藤千香准教授、部員たちと共に「車いすの部」を新設し、全国各地から参加していただきました。

Q. 現在は何のようなことをしていますか？

山口県で小学校の教員をする傍ら、地元のジュニアへのバドミントンの指導をしています。競技力の向上だけでなく、バドミントンの楽しさも伝えられるよう頑張っています。

あべ はるか

阿部 永さん

2014年卒(大学院修了2016年) / 新潟県出身

[学部・学科] 理学部生物学科

[現在の所属] 千葉大学職員



4年次での公式戦、
ラストラン後の記念撮影

自分の殻に閉じこもらず
何にでも積極的に挑戦しよう！

Q. 千葉大学を選んだ理由は？

学生のうちに一人暮らしを経験したいと思い、いろいろな大学の中で「ここだ」と思ったのが千葉大学でした。理学部生物学科を選んだ理由は、幼い頃から生き物が好きで、大学で専門的に学びたいと思ったからです。

Q. どのような学生生活を送っていましたか？

自分の専攻は群集生態学という分野でしたが、別の分野の先生や先輩からアドバイスをいただいたり、チェコ科学大学の研究チームと共同研

究を行うなど、分野や研究室に縛られない視野の広い研究活動ができました。また、陸上部に所属し、3年次に主将を務めました。80人以上いた部員一人ひとりに気を配り、まとめたことは自身の成長に繋がったと思います。

Q. 学生時代の印象深い思い出はありますか？

大学院の時に、苫小牧にある北海道大学の演習林でフィールドワークのために数カ月間滞在了。研究チームには海外からの研究者もいて、文化も考え方も違う人たちとの共同生活や研究は苦勞でしたが、今思えば忘れられない経験です。

わたぐち

渡口 ひかりさん

2018年卒 / 千葉県出身

[学部・学科] 工学部デザイン学科
(現在の工学部総合工学科)

[現在の所属] 木更津市観光協会



「デザイン総合プロジェクト」内のイベントで、
ボランティアガイドさんと煮物を作りました



身のまわりのことに興味を持ち
自分の中の引き出しを広げよう！

Q. 千葉大学を選んだ理由は？

理系に進みたいと考えていて、絵を描いたりものを作ることも好きだったので「工学部デザイン学科」という名前に興味を持ちました。最終的に決めた理由は、卒業展示でもある意匠展で先輩たちの作品に触れ、デザインの幅広さ・面白さを感じたからです。

Q. どのような学生生活を送っていましたか？

自分に一番足りないと思っていた発想力と想像力を養うために、日常からヒントを得ようと、身のまわりのものをいろいろな角度から見つめ直して

いました。そのおかげか、視野と考え方が広がったような気がしています。また、大学でしかできないことをしようと、学生フォーミュラでカウル(車などの外装)の原型製作から塗装までを行っていました。完成後、大会で実際に走行している姿を見たときの感動をよく覚えています。

Q. 在学中に取り組んだことは？

卒業研究として参加した「デザイン総合プロジェクト」で、木更津の観光・まちづくりについて1年間調査・試行しました。さまざまな人たちと出会い、「暮らし」について考えるよい機会になりました。



生涯を掛けて取り組む
ライフワークと出会えるはず！

つかだ ゆうこ

塚田 祐子さん

2015年卒 / 東京都出身

[学部・学科] 看護学部看護学科

[現在の所属] 千葉大学大学院看護学研究科
在学



東日本大震災後の石巻市で活動を終える際に住民の方からいただいたお守り。研究室のデスクに置いています

Q. 千葉大学を選んだ理由は？

オープンキャンパスで看護学部の先生から「看護師は医師の補助役ではない。チーム医療の輪の中で患者さんに寄り添い、時にリーダーシップを発揮しながら自律して役割を果たす」という言葉を聞き、自分が目指す看護師像と一致していたからです。

Q. 在学中に取り組んだことは？

グローバルヘルスに関わることも私の夢のひとつであり、看護学を学ぶ傍ら英会話教室に通っていました。現在、国際学会で他国の研究者と

の交流などで役立っています。

Q. 学生時代、人生のターニングポイントとなった出来事は？

東日本大震災発生後、被災した方々のそばで自分にできることをしたいという思いから1年間休学。宮城県石巻市の看護師のボランティア団体で住民や行政職員・ボランティア看護師を繋ぐコーディネーターとして活動しました。その経験から、「人々が災害という危機を乗り越える支援をする」ことを一生の仕事にしたいと考え、現在所属している災害看護学専門領域への進学に繋がりました。

今年度70周年を迎える千葉大学に、3つのキャンパスをかたどったマスコット、ニシ・イノ・マツが誕生しました!

特集 千葉大学 マスコット **ニシ** NISHI **イノ** INO **マツ** MATSU

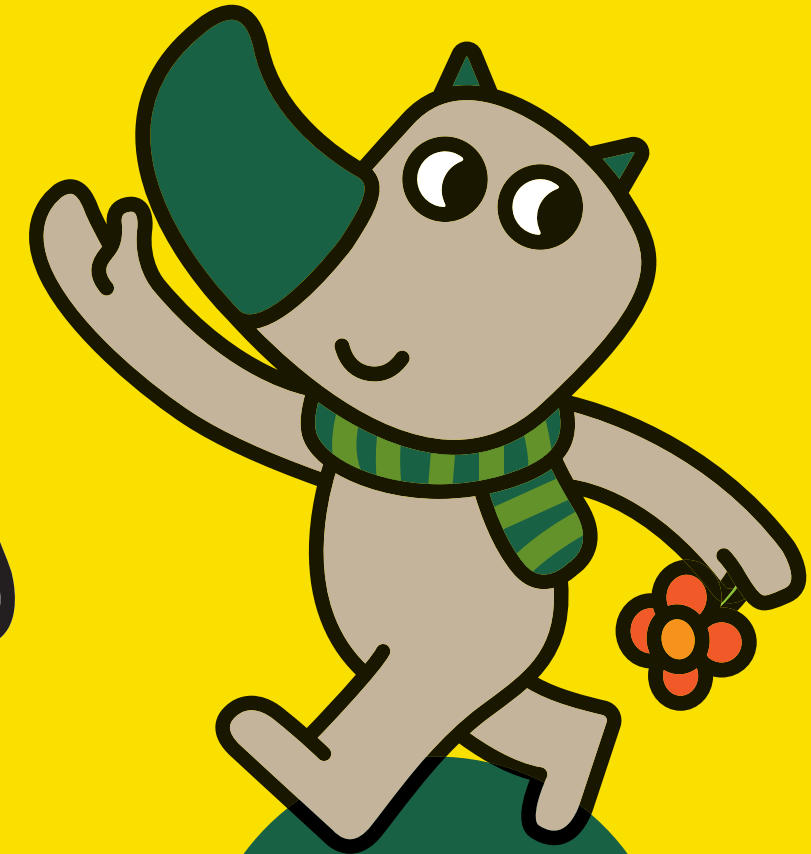
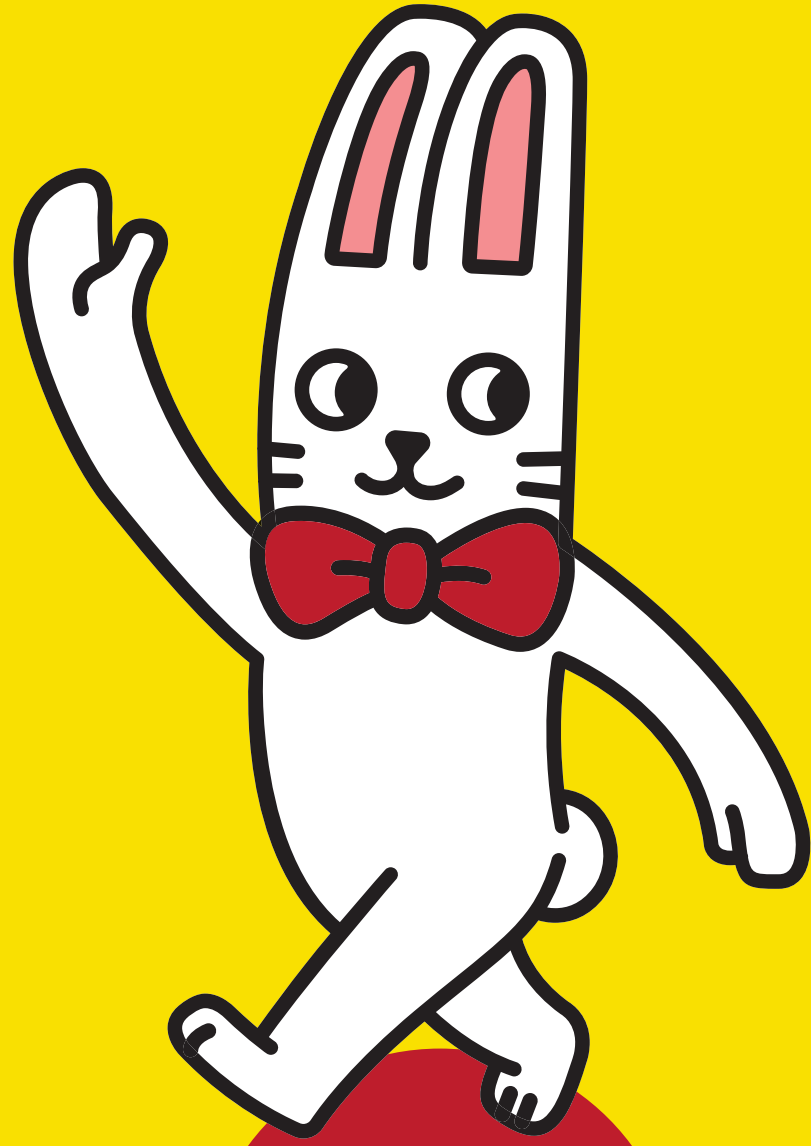
誕生!

この春、千葉大学マスコットに任命された、うさぎの「ニシ」、かもめの「イノ」、さいの「マツ」。ニシの顔は西千葉キャンパス、イノの顔は亥鼻キャンパス、マツの顔は松戸キャンパスと、それぞれ学部を置くキャンパスの形をしています。

任命式では、それぞれ真剣な面持ちで任命書を受け取り、学長から「みんなに愛されるマスコットとなり、千葉大学をPRしてください」という激励の言葉が贈られました。

マスコットたちは、2019年4月5日に行われた千葉大学入学式で初のお披露目となり、式後には新入生たちと和やかに写真撮影をするなど、初めての任務を全うしました。

今後はイベントやグッズなど、さまざまな場面で登場していく予定です。千葉大学マスコット「ニシ」「イノ」「マツ」をよろしくお祈りします!



入学式でデビュー!



徳久学長を囲んで記念撮影

CAUTION! 本学の一員であっても、千葉大学マスコットを許可なく使用・転載・複製することを禁じます。

NISHI 誕生日 2月6日
身長 155cm
ニシ(うさぎ) 体重 65kg

西千葉キャンパス 空飛ぶ研究科 所属。
本当は誰とでも仲良くしたいけれど、なんだか恥ずかしくて、ついツンデレになってしまう。ウーロン茶大好き。

INO 誕生日 7月7日
身長 140cm
イノ(かもめ) 体重 45kg

亥鼻キャンパス 飛行医療科 所属。
空回りもするが、前向きな頑張り屋さん。大きな夢を持ち、経験を積むために空の国に留学していた。涙もろい。

MATSU 誕生日 10月15日
身長 145cm
マツ(さい) 体重 65kg

松戸キャンパス 空の花研究センター 所属。
キャンパス内の困りごとをよく解決してくれる。そっかしいけど素直な性格。花は友だち。

マスコットたちの表情も、今後どんどん増えていく予定です!



千葉大学は パラスポーツ を応援しています!

千葉大学では、パラスポーツに対する理解の促進や競技人口の増加を図ることを目的として、パラスポーツに関するさまざまな取り組みを行っています。



実際に競技を体験



2

日本郵便の職員と千葉大生で、切手の貼り付け作業



3
シッティングバレーの切手モザイクアート。展示の前でポーズをとることで、実際に競技を行っているような写真が撮れます

切手モザイクアート

日本郵便と千葉大学は共同で、東京2020パラリンピック競技大会において千葉県内で開催される競技の切手モザイクアートを制作しています。

これまでに、車いすラグビー(使用切手約3,000枚)、シッティングバレー(約8,500枚)、ゴールボール(約12,000枚)の3種目を制作。プロジェクトに携わる学生たちは、実際に各競技を見学・体験し、事前取材で気づいた競技ならではの魅力を切手モザイクアートに表現します。

プロジェクトでは、地域との交流を大切にしています。シッティングバレーのモザイクアート作成の際は、作品の一部を制作する体験会を千葉市内の小学校で開催し、作品をフオトスポットとして市役所や地域の体育館などに展示しました。プロジェクトを通じて地域の方々パラスポーツに触れる機会を増やすとともに、パラスポーツを介した交流の創出など、地域貢献に繋げていくことを目指して活動しています。



参加学生の声

- 左：大学院 融合理工学府 創成工学専攻 デザインコース デザイン文化計画研究室 博士後期課程 2年 宮田 佳美さん
- 右：工学部 デザイン学科 4年 デザイン文化計画研究室 遠藤 佑輝さん

切手モザイクアートは、千葉市民の皆さんの協力によって収集された使用済み切手を活用し、日本郵便と千葉大学の学生で提案と構成を行います。また、小学生と一緒に完成させた作品もあります。千葉のたくさんの人と一緒につくる切手モザイクアートには、参加していただいた方々のさまざまな思いが詰まっています。

パラスポーツ体験会



パラスポーツ交流会 「みんなで参加、みんなで創る！」

パラスポーツ交流会は、2016年から毎年5月に西千葉キャンパスで開催しているイベントです。東京2020応援プログラムにも認定されていて、千葉大学学生団体おりがみが企画・運営を行っています。

4回目となる今年は、2019年5月11日に、車いすフェンシング、ボッチャ、ゴールボール、シッティングバレーの体験会を行いました。当日は小学生や大学生、社会人やシニアの方まで幅広く、総勢150名以上が関わるイベントとなり、参加者は普段触れる機会のない競技を楽しみました。

SHINEプログラムによるボッチャ交流戦

スポーツ活動を通じたASEAN諸国の若者との交流促進や友好親善促進を目的としたプログラムであるSHINE(Sports & Health International Network for Education)の一環として、千葉大学へ留学している外国人学生と千葉大学学生団体おりがみがコラボレーションし、ボッチャ交流戦を開催しました。

交流戦に参加した23名のASEAN諸国からの短期留学生たちは初めてボッチャを体験し、千葉大生とともに試合を楽しんでいました。



千葉大学学生団体おりがみは、「学生が軸となり誰もが参加できるオリンピック・パラリンピックをつくっていくこと」を目標に設立された有志団体です。パラスポーツ関連のイベントを数多く行って、初めての人でもすぐ楽しめるボッチャをよく活動に取り入れています。

詳細はこちら ▶



教育学部附属小学校で行われたボッチャ体験会

西千葉キャンパスがある千葉市稲毛区では、地域の皆さまにパラスポーツへの理解と関心を深めていただき、共生の地域づくりや地域の活性化を図ることを目的に、区内各所でボッチャ体験会を実施しています。2018年9月に教育学部附属小学校で、保健体育の授業の一環として実施された体験会は、子どもたちがパラスポーツへの興味関心を高める一助となりました。



教育学部附属特別支援学校の生徒が企画した パラスポーツ体験会

教育学部附属特別支援学校の生徒たちが、地域の方々に向けて企画し、稲毛区や長沼コミュニティセンターの協力のもと、同センターにおいて2019年2月に開催しました。東京2020教育プログラム「よい、ドン!」の一環として実施された本イベントでは、ボッチャなどのパラスポーツを現役選手とプレーできる体験会のほか、生徒たちが考えたオリジナル競技での交流などが行われました。

INFORMATION

駐日パナマ共和国大使に 名誉博士号を授与しました

2019年4月11日、千葉大学西千葉キャンパスけやき会館において、リッテル・ディアス駐日パナマ共和国大使への名誉博士号授与式が執り行われました。パナマ大学、パナマ工科大学と千葉大学の交流協定締結に向けた調整や、パナマから来日した学生、パナマを訪問した千葉大生に対する継続的な支援など、千葉大学のために多方面からご尽力いただいた功績を称え、徳久学長より学位記が授与されました。



左から徳久学長、ディアス大使、パナマ大学からの留学生であるピティさん

INFORMATION

千葉大学と8社が連携し、 地方創生戦略研究推進 プラットフォーム創設

千葉大学は、2019年3月7日にキッコーマン株式会社、京成電鉄株式会社、小湊鐵道株式会社、株式会社JT総合研究所、株式会社千葉銀行、株式会社ちばぎん総合研究所、東日本旅客鉄道株式会社千葉支社、米屋株式会社と連携協定を締結し、「地方創生戦略研究推進プラットフォーム」を立ち上げました。地域の総力を結集して地域の課題解決に取り組むための環境づくりを行います。



連携協定締結の様子

EVENT

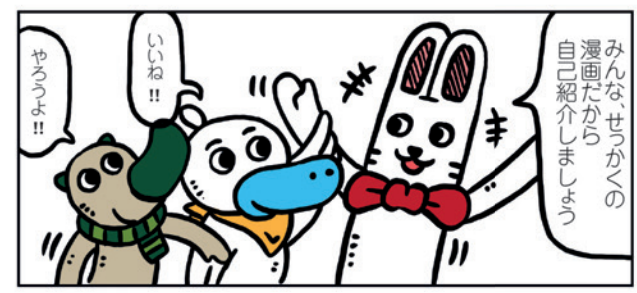
治療学人工知能(AI) 研究センター設立記念 シンポジウムを開催

2019年4月27日に、「医療とともに進化するAI・数理」と題して、治療学人工知能(AI)研究センターの設立記念シンポジウムを開催し、AI・数理科学が専門である理論系と臨床・基礎医学系の研究者が互いの領域について情報交換しました。次世代の臨床・基礎医学の確立に向けたビジョンを共有するために開かれたこのシンポジウムは、研究者のみならず、臨床医や学生、企業関係者など幅広い分野の方々の交流の場となりました。



講演する川上英良センター長

CHIBATOMOものがたり 1時限



OBOG MESSAGE

人と地球と豊かな未来のために 日本電気株式会社 堀 惇史さん

高精度・高信頼性の姿勢制御系を開発

私はNECに入社以来、人工衛星の姿勢制御系に関する業務を担当しています。人工衛星の運用においては、「衛星の姿勢を思い通りに操ること」が非常に重要になります。私の所属する第三宇宙技術部では、高精度な姿勢制御はもちろんのこと、過酷な宇宙環境でも安心して使用できる、高信頼性の姿勢制御系の開発に取り組んでいます。当部では若手の内から様々な業務を任せられるため、非常にやりがいを感じています。特に、自身が開発や試験を行った衛星の打上げが成功し、無事運用されていることは、今でも嬉しく思っています。

大学での経験を活かして

学部・修士では機械工学を専攻しており、学部4年時に制御工学の研究室へ所属しました。研究室では、ドローンの飛行制御に関する研究を行っていました。現在、衛星の「制御」に関する業務を行っていることもあり、大学・研究室で学んだ数学や力学、情報工学、制御工学の知識が今の仕事に活かされています。また、論文の執筆や研究室・学会での発表

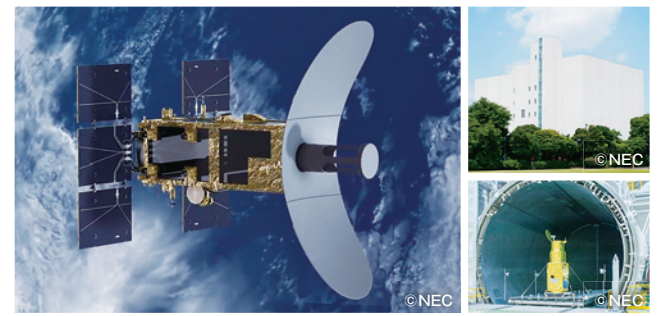


堀 惇史 (ほり・あつし)
2014年工学部機械工学科卒業。
2016年大学院工学研究科人工システム科学専攻機械系コース修了。
2016年入社 宇宙システム事業部 第三宇宙技術部所属。

を行った経験が、業務での資料作成やプレゼンテーションに活かされていると感じています。

唯一無二の技術者を目指して

現在入社4年目となりますが、まだまだ学ぶべきことは多くあると感じています。今後も入社時に抱いていた「貪欲に学ぶ」精神を忘れず、さまざまな業務に挑戦し、幅広い知識を身につけていきたいと考えています。将来的には、他の人から一目置かれる唯一無二の技術者として、日本の宇宙開発を盛り上げていきたいです。



左: NECが開発した衛星「ASNARO-2」。本衛星の姿勢制御系に関する試験や運用を担当しました。 右上: 人工衛星の組み立てや評価・試験などを行う「衛星インテグレーションセンター」の外観 右下: 大型スペースチャンパー (宇宙環境を模擬する装置)

日本電気株式会社 (NEC) Orchestrating a brighter world
https://jpn.nec.com/ NEC
「社会に貢献したい」——
そんな想いを胸に、人々がICTの恩恵を享受できる社会を実現するため、世界NO.1技術をはじめとするICTを活用し、海底から宇宙に至る広大な事業フィールドでNECはICTを通じて社会を支えています。
創業120年を迎えるNEC、今もお成長・変革に向けて挑戦し続けています。それはNEC自身を超えていく大きなチャレンジです。
私たちと共に、今までのやり方にとらわれず、情熱的に粘り強く未来をつくる方をお待ちしております。

INFORMATION

「メキシコ・千葉大学コーヒー」 販売しました!

メキシコ産の豆を使用した「メキシコ・千葉大学コーヒー」が、2019年6月5日より販売を開始しました。

千葉大学コーヒーの第2弾となるこのコーヒーは、京成みどり台駅前にある「Eureka Coffee Roasters」の協力のもと誕生。オレンジのような爽やかな香りやローストしたアーモンドのような甘みを特徴としています。メキシコの豊かな土壌のもと育てられた完熟コーヒーチェリーが織り成す、爽やかな香りや味わいをお楽しみください。



西千葉キャンパス インフォメーションセンターにて好評販売中

もっと
知りたい
千葉大学

医学部の正門前にある オブジェは何?

医学部創立85周年(1960年)記念に建てられた記念像で、右側面に長尾精一先生像、左側面に荻生録造先生像のレリーフがはめ込まれています。長尾は1880年に公立千葉病院長として赴任以来、官立第一高等学校医学部、官立千葉医学専門学校と組織が変遷しても校長を歴任。荻生は1902年に長尾の後を継ぎ、同校を発展させ続けた功績を称える文章がこのオブジェに刻まれています。(国際教養学部 見城悌治)



長尾精一先生像

荻生録造先生像

学生・若手研究者のチャレンジを支え、未来を育てる 千葉大学 SEEDS 基金

千葉大学SEEDS基金は、ご寄附のもとに、学生の生活環境の整備、教育研究環境の整備、学生への奨学金の支援、国際交流事業の推進などを行っています。次世代を担う若者がより良いキャンパスライフを送れるよう、ご支援・ご協力をお願いいたします。



ホームページから寄附の申込みができます
詳しくは → <http://kikin.chiba-u.ac.jp>

INDEX VOL.48

02 千葉大学全員留学 ENGINEプラン 2020年始動!!

学生の「全員留学」を目指すプランが来春スタート!
その狙いや取り組みの内容を紹介します。

04 卒業生の声 ~学生生活を振り返って~

4人の卒業生たちに、千葉大学での学生生活を
振り返ってもらいました。

06 千葉大学マスコット ニシ イノ マツ 誕生!

この春デビューした千葉大学マスコットを
よろしくお祈りします!

08 千葉大学はパラスポーツを応援しています!

パラスポーツをテーマにした切手モザイクアートの制作プロジェクトや、
競技の体験会など、千葉大学の活動に注目しました。

10 TOPICS /もっと知りたい千葉大学/

OBOG MESSAGE 日本電気株式会社 堀 惇史さん



ちばだい
プレス CHIBADAI
PRESS
千葉大学
広報誌



編集・発行/千葉大学 企画総務部 渉外企画課 広報室
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号
TEL: 043-251-1111(代表) E-mail: koho-hp@office.chiba-u.jp
ご意見・ご感想をお寄せください

www.chiba-u.ac.jp

[表紙]

千葉大学マスコット
ニシ・イノ・マツ



今年度70周年を迎えた千葉大学に、3つのキャンパスをかたどったマスコット、うさぎの「ニシ」、かもめの「イノ」、さいの「マツ」が誕生しました。今後、イベントや学内外への広報など、さまざまな場面で登場していく予定です。千葉大学の仲間として、見かけたらぜひ仲良くしてあげてください。